三年に一度、思いを繋ぐ

徳谷神社大祭

8月6日、徳谷神社（小長井区）で3年に1度の大祭りが開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症に配慮し、昼の余興や神輿の練り歩きなどを例年よりも規模を縮小して実施されました。

午前中、神社境内で行われた祭典式には関係者約30人が参列。厳かな雰囲気の中、神事が執り行われました。

午後4時、「昼の余興」として神輿と担ぎ手が各地区の集会所などを回り、力強く神輿を担ぎ上げると、住民から拍手が送られていました。

夕方、小長井区の河川敷沿いの「つつみ遊園地」に続々と人々が集まり始めました。威勢の良い口上とともに花火が打ち上げられ「夜の余興」が盛大に幕を開けました。

演目の合間、赤石太鼓の軽快な演奏が鳴り響くと、暗闇に手筒花火の火柱が現れました。詰めかけた見物客は華々しい光の演出に魅了されていました。

interview 『祭』を後世に残すために

住民の負担にならない祭りの形を

徳谷神社祭典実行委員会
馬場 弘二（まば ひろじ） さん（右）
鈴木 貴久治（すずき きくじ） さん（左）

当初、コロナ禍で開催することにためらいがありましたが、感染症対策を徹底し、皆さんからの理解もあって開催することができました。しかし、現状は高齢化や人口減少で祭り自体を続けていくことに難しさを感じています。ですが、自分たちにとって祭りが過度の負担にならず、またそれぞれが無理なく参加できるような形を住民みんなで考えていくことが大切だと感じています。

担ぎ手の存在が神輿の存続につながる

徳谷神社神輿保存会会長
井口 晶彦（いぐち まさひこ） さん

今回はコロナ禍もあって、神輿の担ぎ手を広く勧誘することはしませんでしたが、近年は他地区や町外に転出している若者に SNS などでお願いをしています。担ぎ手不足は今後の課題ですが、若者と一緒に神輿を担ぐという体験を共有し、若者に「また参加したいな」と思ってもらえるように、我々同年代の人間が中心となって、後世に神輿を繋いでいかなければと感じています。

1＿各地区を回った神輿を祈祷　2＿おじいちゃん！これ買ってー♪　3＿火の粉に耐える姿。手筒花火の見せ場　4＿「花火きれいだね」夏休みの思い出に　5＿家族で記念撮影　6＿宴もたけなわですが、まだまだ盛り上がっています